

カラダの 相談室



北浜えぎ整形外科 院長

恵木 丈さん

第3回

骨粗鬆症

私たちの体の骨は生きています。加齢とともに無症状で進行する病のため、手遅れにならないよう定期的に骨密度を調べるのが大切です。高齢化社会の今、早期発見・早期治療が健康寿命を延ばすことにつながります。

身長の下下は危険なサイン 早期治療が健康寿命を延伸

Q 骨粗鬆(こつそしょう)症はどのような病気ですか。

A 骨の量や強さが低下し骨折しやすくなる病気です。痛みなどの自覚症状なしに骨がもろくなり、ある日つまずいたなど少しの衝撃で骨折し、骨粗鬆症だとわかることがあります。がんや心筋梗塞のようにすぐ命に関わる病ではありませんが、骨粗鬆症の骨折から寝たきりになることもある、健康寿命と関連性が極めて高い病です。

Q 女性は骨粗鬆症になりやすいといわれています。原因を教えてください。

A 国内患者数約1300万人のうち約1000万人が女性で、その数は40歳代後半から急激に増加します。主な原因は加齢と閉経です。女性は閉経期を迎えると女性ホルモンの分泌が減少します。その結果、骨吸収を行う「破骨細胞」が活発になり、骨形成を行う「骨芽細胞」が追い付かなくなると骨は減っていきます。その他、関節リウマチや糖尿病などの疾患が関与して起こる統廃性や、薬剤が原因となることもあります。

Q 骨粗鬆症の可能性が高い症状はありますか。

A 腰や背中が曲がってきた、以前より身長が低くなった、背中や腰に痛みがある、などですね。「いつの間にか骨折」と言われますが、骨がもろくなり、つぶれることで起こる症状です。一度背骨を骨折すると再骨折のリスクが高くなります。

Q 診断にはどのような検査が必要ですか。

A 骨密度検査、胸腰椎レントゲン検査、血液検査の3つです。骨密度検査にはDXA(デキサ)法、超音波法、MD法があります。YAM(若年成人平均値)と比較して70%以下の骨密度だと骨粗鬆症と診断します。一番骨密度を正確に測定できるのが当院も採用している全身型のDX



えぎ・たけし 医学博士。大阪市立大学医学部卒業。

同大学附属病院や関連病院などで整形外科、手外科、リウマチ科、リハビリテーション科の診療や研究、若手医師の育成を行う。日本整形外科学会専門医。日本手外科学会専門医、指導医、代議員。日本リウマチ学会専門医、指導医、評議員。令和3年4月開院。Best Doctors in Japan (2012年から連続選出中)など。
☆北浜えぎ整形外科 大阪市中央区高麗橋2の4の2
〒540-0205 北浜3階
Tel 06・6205・8338